

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢鶴沼石上2丁目マンション新築工事	階数	地上14F
建設地	藤沢市鶴沼石上2-6-7	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、商業地域、準防火地域	平均居住人員	130人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2015年6月10日
敷地面積	517 m ²	作成者	(株)DAN総合設計
建築面積	203 m ²	確認日	-
延床面積	2,127 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 500mほどの旗竿の限られた敷地に14階の塔状の共同住宅をつくる。免震構造のために隣地境界からの離隔距離が発生するが、その離れが通風面・採光面に良好に働く。		その他
Q1 室内環境 配線をコンパクトにすることで周囲への抜けをつくり、室内に良好な採光と通風を確保した。	Q2 サービス性能 躯体は劣化対策等級3相当とし、設備では耐用年数の長い配管材を採用することで建物の長寿命化に配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地に対して低い建蔽率で建物を計画することで、敷地前面に余裕をつかった。
LR1 エネルギー 一部に建物緑化を用いることで、微力ながらも周辺の温度上昇に抵抗した。	LR2 資源・マテリアル P.S.、天井内配管により設備との錯綜を回避することで、部材の再利用の可能性を高めた。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率=67%としている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される